

2019年10月7日
在グアテマラ日本国大使館

公開情報の取りまとめは以下のとおり。

1 内政

（1）元大統領候補のサンドラ・トーレス氏の逮捕

9月2日、検察庁および国家文民警察（PNC）は、サンドラ・トーレス氏（本年の大統領選で決選投票まで進んだ大統領候補、コロン元大統領の元夫人）を2015年大統領選における不正選挙資金および共謀の疑いで逮捕した。トーレス氏はマリスカル・サバラ刑務所で勾留されている（10月2日、トーレス氏は心拍数異常が認められ、私立病院へ移送された）。

検察庁は、UNEが2015年大統領選における選挙資金の一部を最高選挙裁判所（TSE）に報告しておらず、不正選挙資金の罪に該当すると主張している。検察庁によると、未報告の選挙資金額は約2,700万ケツアル（約3億7千万円）に上るとされている。

また、検察庁は、2015年大統領選における不正選挙資金の疑いで同党の解党をTSEに請求した。TSE判事は、報告書を作成するよう検察庁に求めた。

トーレス氏は「大統領候補者は不逮捕特権を持つ。2019年大統領選のプロセスが完全には終了していないため、自分はまだ不逮捕特権を持っている。本件は政治的追及である。ジャマテイ次期大統領は、自分を刑務所に入れると発言していた。早く彼に質問してほしい！」と述べた。

（2）ジャマテイ次期大統領のワシントン訪問

9月5日、ジャマテイ次期大統領は米ワシントンを訪問し、ポンペオ米 국무長官と会談を行った。ジャマテイ次期大統領は「同米 국무長官と移民問題について協議した。7月、グアテマラと米国は移民に関する合意（いわゆる「安全な第三国」合意）に署名したが、モラレス現政権は、同合意の情報を我々次期政権に全く提供していない。同合意に関する不確実性が払拭されない限り、我々次期政権は同合意を受け入れることはできない。同米 국무長官は、情報を提供するようモラレス現大統領に圧力をかけることを約束した」と述べた。

ベネズエラに関し、ジャマテイ次期大統領は「我々次期政権はニコラス・マドゥーロを認めず、ガイド・ベネズエラ暫定大統領を承認する。また、グアテマラがメンバーとなっているリマ・グループがより厳しい姿勢でベネズエラ問題に取り組むことを望む」と述べた。

（3）最高裁判所等判事選任プロセス

9月17日、憲法裁判所は、民間団体からの異議申し立てを受け、最高裁判所等判事候補者指名プロセスの無効を決定した。憲法裁判所は、上訴裁判所判事指名委員の一部委員の新たな選任を命じると共に、最高裁判所および上訴裁判所判事双方の候補志願者資格要件の検証評価に不備があるとして、同評価を行う司法キャリア審議会に対し、48時間以内に同評価を行い、完全な関係書類を候補者指名委員会に送付するよう指示した。

現在、新たな最高裁判所および上訴裁判所判事の選出プロセスが進んでおり、通常であれば10月13日で判事が交代する（任期は5年）が、今回の憲法裁の決定により同日までに選出が完了しない可能性が出てきている。

2 外交

(1) 米テキサス州で発生した銃撃事件に関する弔意表明

8月31日、グアテマラ外務省は、米テキサス州で発生した銃撃事件に対し哀悼の意を表明する以下のプレスリリースを発出した。

「グアテマラ政府は、米テキサス州ミッドランドおよびオデッサで発生した死傷者を伴う銃撃事件に対し哀悼の意を表明する。グアテマラ政府は、米政府および国民に対し連帯の意を表明し、被害からの早期回復を願う。同事件が発生した地域には、農業および石油関連の仕事に携わる約70名のグアテマラ人が住んでおり、在米テキサス州グアテマラ領事館は状況を分析し、被害者にグアテマラ人が含まれているか否かについて情報収集を行っている。」

(2) 在スウェーデン・グアテマラ大使館の閉鎖決定

9月11日、ホベル外相は「グアテマラ政府は、在スウェーデン・グアテマラ大使館を9月末に閉鎖することを決定した。閉鎖の目的は、他国における外交・領事サービスのプライオリティを踏まえた再編のためであり、スウェーデンとグアテマラの二国間関係に一切影響しない。スウェーデン在住のグアテマラ人に対する領事サービスは、在ドイツ大使館が兼轄することとなる」と述べた。

2018年5月、内政干渉を理由に、政府はコンパス当地スウェーデン大使の交代要請を行ったが、憲法裁判所が同スウェーデン大使交代要請を無効とする仮処分を出し、交代が実施されることはなかった。同交代要請以後、今回の閉鎖決定は、モラレス政権がスウェーデンに対して行う最新のアクションである。2016年～2020年、スウェーデンは、当国の民主主義および司法の強化を行うための開発協力資金として、1億1,600万米ドルをグアテマラに供与することになっている。

ジャマテイ次期大統領およびプロロ次期外相は、在スウェーデン・グアテマラ大使館の閉鎖決定に関連し、この2週間に2度当地EU各国大使と会合した。ジャマテイ次期大統領は、本件大使館閉鎖は不適切で、本来あるべき外交関係にそぐわないこと、2020年1月14日の大統領就任日以降、現在とは異なる外交政策を改めて採用すること、それは国家間の敬意、相互主義および相互信頼に基づく政策である旨表明した。

(3) ジャマテイ次期大統領のメキシコ訪問

9月20日、ジャマテイ次期大統領はメキシコを訪問し、ロペス・オブラドール・メキシコ大統領と会談を行った。ジャマテイ次期大統領は「同メキシコ大統領は、グアテマラ・メキシコ国境付近の移民発生地域の開発と雇用創出のためにグアテマラへ3千万米ドルを供与すると約束した。供与は2020年に行われ、同年にプロジェクトが開始される。同国境沿いの400キロの地域にフリーゾーン (zona franca) を設け、「繁栄の壁」として投資を呼び込む。このプロジェクトは、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (CEPAL) および米州開発銀行 (BID) に説明済みである」と述べた。

(4) ジャマテイ次期大統領の国連訪問

9月25日、ジャマテイ次期大統領はニューヨークの国連本部を訪問し、ローズマリー・ディカーロ (Rosemary DiCarlo) 政治担当事務次長 (Under-Secretary-General for Political and

Peacebuilding Affairs) と会談を行った。ディカー口政治担当事務次長はSNSで「有意義な会談であった。国連はグアテマラの汚職・無処罰問題との闘いを支援する」と述べた。

(5) モラレス大統領の第74回国連総会への出席

9月24日および25日、モラレス大統領はニューヨークにて第74回国連総会に出席し一般討論演説を行った。パトリアシア大統領夫人、ホベル外相およびその他閣僚・政府高官が同行した。

モラレス大統領は一般討論演説にて「現政権があげた成果をほこりに思っている。グアテマラ無処罰問題対策国際委員会(CICIG)は、9月3日でそのマンデート(設置期限)を終えたが、グアテマラ国内法、国際法、グアテマラの主権、グアテマラ人の人権を侵害したため、CICIGが当国の司法に影響を与えた違法性について網羅的な捜査を実施すべきである。イバン・ベラスケス氏を委員長としたCICIGは、アルダナ前検事総長と共に国連のイメージを利用して選択的・恣意的・政治的な捜査を行い、司法を政治化し、グアテマラに損害を与えた。グアテマラは国連事務総長に対し、CICIGが当国で行った活動に関する詳細な報告書を提出するよう求める」と述べた。

同大統領が一般討論演説を行った際、他国の首脳はほとんど席をはずしていた一方、同行した何人もの閣僚やその他政府高官が席を埋め、何度も盛大な拍手を送った。同大統領は一般討論演説の大部分をCICIGおよびグテーレス国連事務総長に対する批判に費やした。

当国元外相や当国シンクタンク「ASIES」専門家等は「同大統領の今回の発言はCICIGの当国に対する貢献を全く無視し、今まで例にないくらい無礼なものであり、聞くだけで神経をすり減らすようなひどい演説であった」として強く批判している。

23日、同国連総会に先立ち、同大統領は国連気候行動サミットにも出席し「我々は自然の重要性を認識している。グアテマラは気候変動に脆弱な国の一つであり、環境保護および天然資源の管理は政府の優先政策である。環境保護のため、グアテマラはプラスチック(ビニール袋、使い捨てのコップ、ストロー等)の使用を制限する」と述べた。しかし、当地専門家等は、プラスチックの使用制限は現実的ではないとして批判している。

同大統領は台湾との関係にも触れ「持続可能な開発目標(ODS)の達成に向け、グアテマラと台湾は協力しており、2016年以降グアテマラは台湾と協力して100以上のプロジェクトを実施してきた」と述べた。

3 経済

(1) 鶏肉と卵の密輸ルートの発見

9月23日、検察庁の発表によると、メキシコからグアテマラへ鶏肉および卵を密輸するための複数のルートがサン・マルコス県およびウエウエテナンゴ県で発見された。検察庁によると、メキシコからの密輸は私的かつ違法に設置されたゲートで通行料を払い、その後正式な許可なく作られた道路を通して輸送が行われる。メキシコから密輸された製品は、ケツアルテナンゴ県、キチェ県、アルタ・ベラパス県およびグアテマラ県に輸送される。グアテマラ養鶏組合(GREAVI)によると、密輸は当国で深刻な問題となっており、農場の閉鎖や企業の破産等を引き起こしている。農牧食糧省によると、鶏肉および卵の密輸はメキシコからだけでなく、ベリーズ、エルサルバドルおよびホンジュラスとの国境でも発生している。

4 治安・社会

(1) 2018年国勢調査結果の発表

9月17日、国立統計院（INE）は、2018年7月23日～8月31日に実施した「第12回2018年国勢調査」の結果を発表した。

調査結果では、人口は1,490万1,286人と発表されたが、INEによる過去の試算では1,760万人に達するとされていた。また、国家登録庁（RENAP）のデータでは17日時点で2,024万7千人のグアテマラ人が登録されている（ただし、RENAPのデータは国内・国外在住の区別をしていない）。今回の調査における人口が過去のINEによる試算およびRENAPの登録人数と大きく異なるため、結果に対する疑念と批判が発生している。

INEは、2018年国勢調査プロセスはまだ完結しておらず、人口に関し12月または2020年1月頃に改めて最終的な結果が確定すると発表し、今回発表された人口1,490万1,286人が変更される可能性もあると見られる。政治学者のロナルド・オチャエタ氏は「最終結果がまだ確定していないのであれば、結果は今発表されるべきではなく、政府は今回の結果は暫定的なものであるとの説明を行い、混乱を防ぐべきである」と述べた。

主な調査結果は以下のとおり。

(ア) 調査概要

調査団体：国立統計院（INE）

調査期間：2018年7月23日～8月31日

調査対象数：327万5,931世帯

(イ) 人口

合計 14,901,286人（女性 48.5%，男性 51.5%）

0～14歳： 33.4%（4,972,725人）

15～64歳： 61%（9,091,281人）

65歳以上： 5.6%（837,280人）

(ウ) 県別人口

県	人口	県	人口
グアテマラ	3,015,081人	ソロラ	421,583人
アルタ・ベラパス	1,215,038人	トトニカパン	418,569人
ウエウエテナンゴ	1,170,669人	チキムラ	415,063人
サン・マルコス	1,032,277人	イサバル	408,688人
キチェ	949,261人	サンタ・ロサ	396,607人
ケツアルテナンゴ	799,101人	ハラパ	342,923人
エスクイントラ	733,181人	サカテペケス	330,469人
チマルテナンゴ	615,776人	レタルレウ	326,828人
スチテペケス	554,695人	バハ・ベラパス	299,476人
ペテン	545,600人	サカパ	245,374人
フティアパ	488,395人	エル・プログレソ	176,632人

(エ) 人種

ラディーノ（欧州系と先住民の混血）：56%

マヤ系： 41.7%

シンカ系： 1.8%

アフリカ系： 0.2%

外国人： 0.2%

ガリフナ系： 0.1%

(オ) 識字率：81.5%

(2) イサバル県およびその周辺5県における非常事態宣言

9月4日午後、モラレス大統領は会見を開き、イサバル県およびその周辺5県において、非常事態宣言（Estado de Sitio）を発した。

9月3日、イサバル県エル・エストルにて麻薬取り締まり任務にあたっていたグアテマラ海軍の兵士3名が、麻薬関係者による待ち伏せにより殺害されたことが理由である。モラレス大統領は「3名の兵士の殺害を受け、グアテマラの安全・自由・平和が危険にさらされている。これらの危険を取り除くため、非常事態を宣言することによりグアテマラ軍の能力を一時的に強化する必要がある」と述べた。

非常事態宣言により、対象地域における①行動の自由、②移動の自由、③集会を行う自由、④武器の携行の自由が制限されることに加え、⑤略式の身柄拘束（本来の法的手順を踏まずに拘束することが可能）が認められる。宣言の有効期限は30日間である（根拠法は公共秩序法（Ley de Orden Publico）第16条～19条）。

非常事態宣言の対象地域は以下の6県の中の22市である。

(ア) イサバル県

プエルト・バリオス、エル・エストル、リビングストン、ロス・アマテス、モラレス

(イ) アルタ・ベラパス県

タクティク、セナウ、タマウ、トゥクル、パンソス、サンタ・マリア・カアボン、サンタ・カタリナ・ラ・ティンタ、チャアル、フレイ・バルトロメ・デ・ラス・カサス

(ウ) バハ・ベラパス県

プルラ

(エ) サカパ県

グアラン、リオ・オンド、テクルタン、ウスマトラン

(オ) エル・プログレソ県

サン・アグスティン・アカサグアストラン、サン・クリストバル・アカサグアストラン

(カ) ペテン県

サン・ルイス

(3) イサバル県で8つの非合法滑走路発見

検察庁によると、イサバル県で8つの麻薬輸送飛行機用の非合法滑走路が発見され。そのうち2つは、海軍兵士3名の殺人事件（上記（2））が起きたエル・エストルのすぐ近くであった。8つの非合法滑走路の大半はイサバル湖周辺に位置している。

軍はこれまでも廃棄された小型飛行機を発見している。その多くはペテン県、イサバル県、レタルレウ県、エスクイントラ県、キチェ県、アルタ・ベラパス県における非合法滑走路で発見された。このような小型飛行機は当局に見つかる前に焼却されることが多い。

米国にわたるコカインの90%は、中米およびメキシコを経由するとされ、輸送手段は小型飛行機、ボート、または潜水艦である。

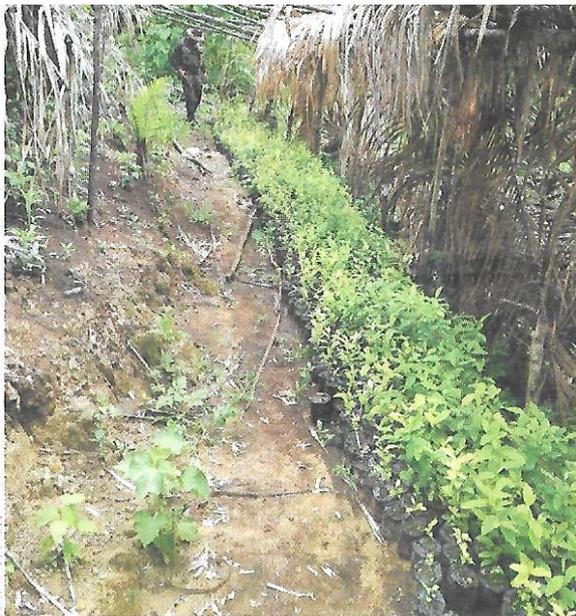


(出典：9月7日付プレンサ・リブレ紙)

(4) イサバル県で麻薬栽培地の発見

9月16日、軍は、海軍兵士3名の殺人事件（上記（2））が起きたイサバル県エル・エストルおよびその他地域で麻薬栽培地を発見した。デゲンハルト内相は「グアテマラは、米国向けコカイン等の麻薬経由地であるばかりか、麻薬の生産地になったことが判明した。麻薬栽培が行われていることがわかった以上、状況は大きく悪化しており、対応策を考える必要がある」と述べた。

専門家のダビド・マルティネス・アマドル氏は「同内相の認識は正しく、新たな対策を練る必要がある。コカインの生産地はグアテマラのみではなく、エルサルバドルおよびホンジュラスも含まれる。政府のプレゼンスが小さい地方の山奥は、麻薬ビジネスにとっては天国のようなものだ」と述べた。



Las autoridades localizaron un narcolaboratorio y plantas de coca en El Estor, Izabal, el lunes pasado. 7

当局がイサバル県エル・エストルで発見した麻薬農園(出典: 9月19日付エルペリオディコ紙)

◇主要経済指標◇	2019年			2018年	2017年
	9月	8月	7月		
インフレ率(前年同月比)	未発表	3.01%	4.37%	2.31%	5.68%
貿易収支(百万米ドル)	未発表	未発表	△780.7	△8,743.8	△7,407.7
輸出(百万米ドル)	未発表	未発表	922.7	10,990.2	10,982.0
輸入(百万米ドル)	未発表	未発表	1,703.4	19,734.0	18,389.7
外貨準備高(百万米ドル)	14,516.0	14,700.1	14,386.4	12,755.6	11,769.5
外国からの送金(百万米ドル)	未発表	980.5	947.8	9,287.7	8192.2
為替レート(対米ドル月平均)	未発表	7.67	7.67	7.52	7.35

(出典: 中銀, 国立統計院) 注) 本年より前の年の為替レートは年平均